

日本なし「筑水」の結果枝の種類による果実肥大の違い							
[要約] 日本なし「筑水」は果実が小玉であることが問題であるが、 <u>短果枝</u> に着果させると、 <u>長果枝</u> （腋花芽）に着果させるよりも <u>果実肥大</u> が良好になる。							
三重県農業技術センター栽培部果樹担当					連絡先	05984-2-6358	
部会名	果樹	専門	栽培	対象	日本なし	分類	普及

〔背景・ねらい〕

日本なし「筑水」は品質は極めて優秀であるが、果実が小玉であることが問題となっている。また、品種登録から年数があまり経過していないので、栽培基準が確立されていない。そこで、果実肥大を良好にするための栽培方法について検討する必要がある。

〔成果の内容・特徴〕

- ①側枝単位に短果枝に着果させる果実と長果枝に着果させる果実を設定し、葉果比を年度毎に30～50の範囲に揃えた。
- ②短果枝の果実は長果枝の果実よりも果実肥大は良好となる。（図1）
- ③短果枝の果実は長果枝の果実と比較して、果形が少し腰高で硬度が少し軟らかいが、糖度とpHに差はない。（表1）

〔成果の活用面・留意点〕

- ①「筑水」の大果生産が可能となり、収益向上につながる。
- ②せん定時には「幸水」よりも短果枝割合を多くし、7割程度とする。
- ③果実肥大をさらに促進するために、摘蕾は必ず実施する。
- ④短果枝の維持を図るために、肥培管理等に留意し樹勢の維持を図る。

〔具体的データ〕

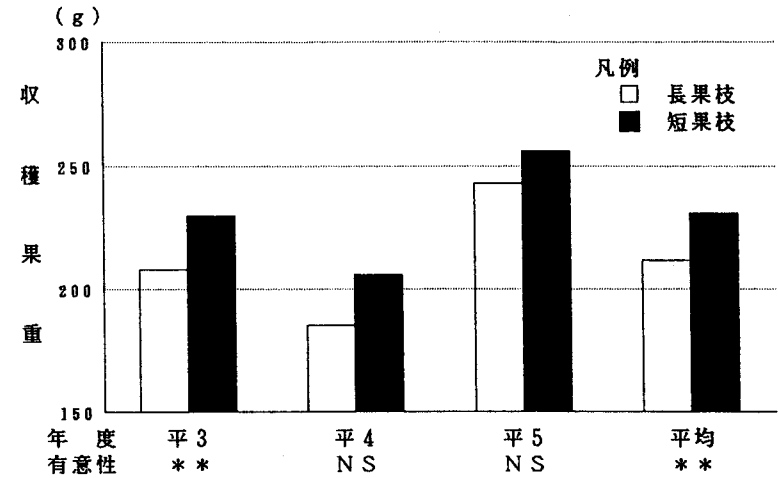


図1. 結果枝の種類が収穫果重に及ぼす影響

表1. 結果枝の種類が果実品質に及ぼす影響

処理	年度	果形指数	地色 (赤道部)	硬度 (lbs)	糖度 (%)	pH
長果枝	平3	1.16	1.8	4.6	14.0	5.40
	4	1.16	2.1	5.2	12.3	5.35
	5	1.17	1.9	4.4	11.8	5.22
	平均	1.16	1.9	4.7	12.7	5.32
短果枝	平3	1.15	2.2	4.5	14.0	5.41
	4	1.14	1.7	5.1	12.7	5.30
	5	1.15	2.1	4.3	11.9	5.24
	平均	1.15	2.0	4.6	12.9	5.32
有意性		*	NS	*	NS	NS

〔その他〕

研究課題名：消費者ニーズに対応したニホンナシ新品種導入による安定栽培体系の確立
 予算区分：地域重要新技術
 研究期間：平成5年度（平成3～5年度）
 研究担当者：輪田健二、服部吉男、小林昇
 発表論文等：